

令和二年度 奈良県教育長賞

「税金を知るためには」

橿原学院高等学校 二年 中西 満優

今の高校生は、税に対しての知識が浅い人が多いと思います。私もですが、この作文を書くにあたって苦労した学生も少なくないのではないのでしょうか。私たち学生が今、直接払う機会のある税金は「消費税」だけが主となっており、消費税以外の税金を払う機会が無いことも、今の学生が税金に対して知識が浅い原因の1つではないかと思います。

では、なぜ高校生が税金に対して知識が浅いことがダメなのでしょう。私も、まだ高校生だからそこまで詳しく知らなくて良いのではと思っていました。しかし今回作文を書くにあたって、税金のことを調べ、両親の意見などを聞いてみると、今のうちから税金の知識はある程度必要なことだということがわかりました。

まず、税金のしくみをわかっていないと、私たちが社会に出て働き始めた時「なんで税金なんか払わなあかんの」というように不満や疑問が溜まっていくからです。自分の払った税金がどのように使われているかよく理解していないと税金を払うのが嫌になるのはあたり前です。自分のお金が税金となってどこに使われているのかをよく知ることはとても大切なことだと思います。

次に、税金は政治家の公約に大きく関わっているからです。公約とは政治家が立候補する際に「私は奈良県をこのように良くしていきます」というように目標を公に約束することを言います。この公約は税金に大きく関わっていることが多く、道路の舗装や公共施設の配備などを公約として掲げている政治家は、「今後の税金の使い道」を約束しているのと同じなので、自らが払った税金を何に使ってほしいかで、投票したい政治家を決めて投票することができます。私たちが近い将来持つことのできる選挙権などにも税金は大きく関わってくるのです。この様に、私たちは高校生のうちから税金について詳しく知っていく必要があるのだとわかりました。

そこで私は高校生がもっと税金を身近に感じられる方法はないか考えました。色々調べていると「地方税」を見つけました。地方税とは、私たちの日常生活と密接に結びついている教育、警察、消防、環境衛生などの公共サービスを行うため、地方公共団体が徴収している税金のことです。自分の地域にお金を払い、地域団体がそのお金で住民の生活をよりよくしているというしくみですが、私はこれで高校生が税金を身近に感じられる方法を考えました。それは学校内に地方税のしくみを取り入れるというものです。具体的に言うと自分の学校を自分の住んでいる地域に見立て、学校に対して税金を払っていくということです。例えば、学校の購買で買う物には学校税が加えられ、1年間でたまった学校税を、生徒自らがより良い学校にするためにはどう使ったら良いかを考えて計画を立て、次の年で実際に学校行事や備品などに使っていくということです。私は学校内でこのようなしくみをつくることによって、税金を身近に感じられるだけでなく、自分たちで学校をより良くしていく喜びや、一年間の税金の使い道を考えるという政治的な面もあり、この1つのしくみだけでたくさんのことが学べると考えました。

税金がどれだけ大切かを知るためにはまず税金の事を知る必要があり、そのためには学生のうちからもっと税金を身近に感じる必要があると思います。